



# ベビーカーの転倒による事故やけがを防ぐために...

## ● ハンドルに荷物を掛けると転倒しやすくなることを認識しましょう

アンケート調査の結果、7割以上の方がハンドルに荷揚げフックを付けて、そこに荷物を掛けていることが明らかになりました。一方、今回のテスト結果からは、ハンドルに荷物を掛けるとベビーカーはバランスを崩し、転倒しやすくなることがわかりました。

特に、子どもが小さく体重が軽い場合、登り坂を通行する場合、段差や障害物を通行する際に前輪を持ち上げる場合に影響が大きくなりますので気を付けましょう。

## ● 子どもを乗せたら、そのたびに必ずシートベルトを！

医療機関ネットワークには、子どもにシートベルトを装着させずにベビーカーが転倒したため、子どもがベビーカーから投げ出されて頭部を受傷した事例がありました。

今回のテスト結果からは、シートベルトを装着させていない場合、ベビーカーが転倒すると乳児ダミー人形が投げ出されることがありました。

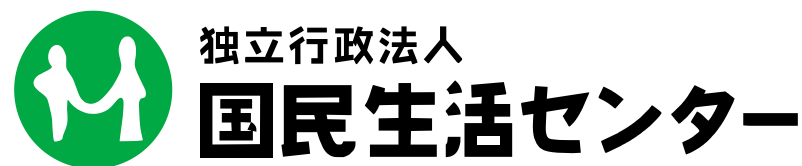
事故の未然防止や被害低減のため、子どもをベビーカーに乗せる際には、必ずシートベルトを装着させるようにしましょう。



本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センター公式サイトに掲載しています。  
<http://www.kokusen.go.jp/>

最新の「くらしの危険」最新号やバックナンバーはこちらからご覧いただけます。  
公式サイト「くらしの危険」コーナー  
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



### 独立行政法人 国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL：042-758-3165 ●2020年3月発行  
イラスト：川崎 敏郎

# くらしの危険 Number 354

## ベビーカーの転倒による乳幼児の事故 -ハンドルに荷物を掛けるときには要注意-



医療機関ネットワーク\*1には、2014年度以降の過去約5年間に、ベビーカーのハンドルに荷物を掛けたことで、ベビーカーが転倒あるいはバランスを崩し、乳幼児がけがをした事例が少なくとも24件寄せられています\*2。

ハンドルに荷物を掛けると転倒しやすくなりますので、注意しましょう。



\*1:消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始。  
\*2: 2014年度以降受付、2019年10月末日までの伝送分。件数は公表のために特別に事例を精査したものです。



## ハンドルに荷物を掛けたことによる 事故事例が寄せられています

医療機関ネットワークには、少なくとも24件寄せられています  
(2014年度以降受付、2019年10月末日までの伝送分)

### ケース 1

駐車場のスロープを降りていたところ、ベビーカーが、掛けていた荷物に引っ張られるように手前に倒れた。子どもはシートベルトを装着しておらず、地面に転落した。外傷性くも膜下出血により7日間入院した。  
(事故発生年月：2015年10月、1カ月・男児)

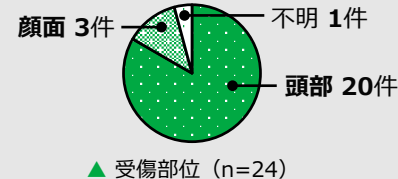
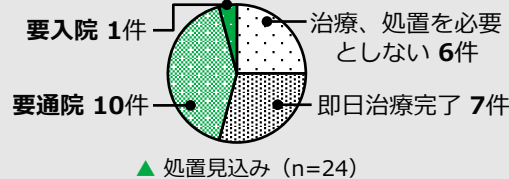
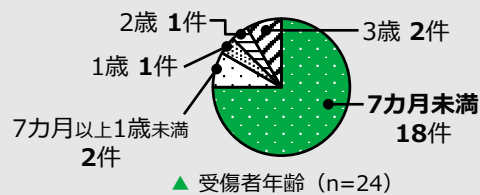
### ケース 2

上の子どもの手をつないで、片手でベビーカーを押していた。ベビーカーから手を離れた瞬間、掛けていた荷物の重みで手前側に転倒し、下の子どもはシートベルトを装着していなかったためアスファルトに放り出され、頭部及び顔面を打撲した。  
(事故発生年月：2019年5月、3カ月・女児)

約8割は7カ月未満の乳児

約半数は入院や通院を要する

9割以上は頭部と顔面を受傷

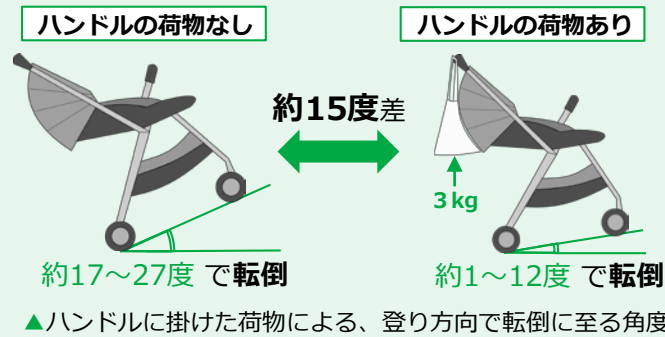


## 商品テスト結果 から

●テスト対象銘柄：乳幼児1人用ベビーカー7銘柄  
●テスト条件：乳児ダミー人形（身長約58cm、体重3.9kg）を乗せたベビーカーのハンドルに3kgの重さの荷物を掛けた状態でテストしました

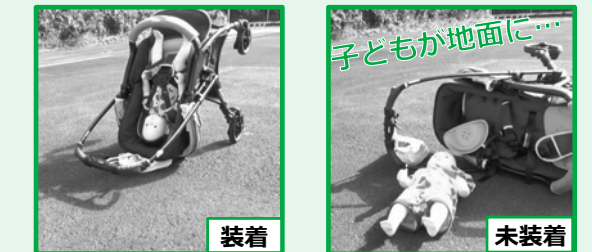
### 検証 荷物を掛けると 登り坂で 転倒しやすくなりました

荷物を掛けることによって、より小さい傾斜角度で転倒しました。



### 再現 シートベルトを装着しないと 子どもが投げ出されることも

シートベルトを装着した場合には、子どもは投げ出されませんでした。



▲ベビーカー転倒時のシートベルトの影響  
※写真は例であり、撮影に使用した銘柄は実際の事故とは無関係です。

### 表示 調査 全ての銘柄で警告表示がありました

全ての銘柄の取扱説明書などには、ハンドルに荷物を掛けた場合、転倒しやすくなる旨、シートベルトを装着していないと子どもが転落する旨の警告表示がありました。



## 消費者へのアンケート調査結果 から

●方法：インターネット / ●対象者：子どもがいてベビーカーを所有して使用しており、そのベビーカーを最も使用する子どもの年齢が4歳未満である男女1,000人 / ●内容：ベビーカーの使用実態について

## ベビーカーごと転倒あるいは 子どもの転落の経験について



→ 約3割 (286人) が「ある」

◀ベビーカーごと転倒あるいは  
子どもの転落の発生経験 (n=1,000)

▼原因として考えられるもの (n=286,複数回答)

ベビーカーごと転倒の原因	子どもの転落の原因
●ハンドルや後付けした荷物揚げフックの荷物 (203人)	●ハンドルや後付けした荷物揚げフックの荷物 (67人)
●段差、傾斜、障害物 (61人)	●シートベルトをしていなかった (54人)
●子どもの姿勢 (38人)	●子どもの姿勢 (51人) ●子どもが自分で乗り降りした (51人)

## 使用実態について

### ■ ハンドルに付ける荷物揚げフック

→ 7割超 (732人) が付けている  
→ 取り出す機会が多くある荷物や  
→ 外出先で購入した商品などを掛ける傾向

- 買い物袋  
食料など出先で購入したもの
- 飲食物類  
ミルク、ベビーフード、手拭きなど

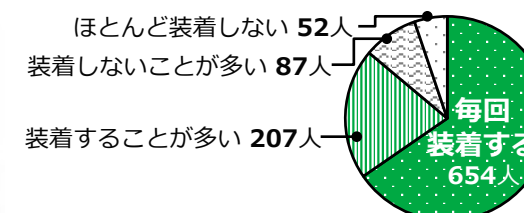
### ■ 座席下のカゴ

→ 9割超 (918人) が利用している

- 衣類  
おむつ、着替えなど

### ■ シートベルト

→ 「毎回装着する」が 7割未満 (654人)



シートベルトを装着させる割合▲  
(n=1,000)



→ 座席下のカゴが付いている人 (976人) の約3割は「使いづらい」と回答しました。

使いづらい理由  
(n=245,複数回答)

1位	荷物が出し入れしづらい (192人)
2位	スペースが不足 (158人)
3位	位置が低い (123人)

## 座席下のカゴを調べました

●テスト対象銘柄：乳幼児1人用ベビーカー7銘柄

- 容積...9,000~18,000 cm<sup>3</sup>  
最大で2倍の差がありました
- 最大積載重量...全ての銘柄で5kg未満
- 開口部の形状



銘柄によっては  
広く出し入れしやすい  
構造になっていました

## ベビーカーの状態や保護者の姿勢 によっては使いづらい場合も...

立った状態では  
手が届かない

背もたれを倒すと、立ったままで  
中身が見えづらい



子どもを抱いた状態で  
荷物を出し入れする様子